

地域の自活を支えるみちづくり



どれだけの人がまちの中心に快適にアクセスできるか？

圏域中心都市30分圏人口カバー率

〔圏域中心都市30分圏人口カバー率 = 圏域中心都市30分圏人口 / 山口県人口〕
圏域中心都市まで30分で到達可能な地域に住んでいる人の割合。



地域の現状と課題

8つの広域生活圏と圏域中心都市へのアクセス性
山口県には中規模の都市が点在しており、8つの広域生活圏からなる分散型の都市構造を形成しています。

中山間地域の多くは、圏域中心都市まで30分で到達することができず、特に、下関都市圏では30分で到達可能なエリアが限られています。



広域生活圏と圏域中心都市30分圏域

市町村合併の状況

市町村合併により、平成15年には56あった市町村が、平成18年までに半分以下に再編される見込みです。地域連携の重要性はこれまで以上に高まるものと予想されます。



市町村合併の状況(平成17年10月現在)

課題への対応

地域連携を強化する道路整備

合併により広域化する市町村の一体性を高め、広域的な市町村合併を支援するために選定された「市町村合併支援道路」の整備を進めています。

これにより、中山間地域における地域連携の強化や日常的な移動の利便性・安全性の向上に努めます。

また、山陽側の都市部では、バイパス整備などの渋滞対策によりアクセス性の向上に努めます。



A市・B町・C村・D村が合併

出典:中国地方のみちづくりビジョン

地域連携を強化する道路のイメージ

代表整備箇所「国道2号 厚狭・埴生バイパス」

厚狭・埴生バイパスは、新市町村間の広域的な連携強化を促進する道路として、主要渋滞ポイントの渋滞の解消、新幹線厚狭駅や埴生ICへのアクセス性の確保、地域産業発展への貢献等を目的に整備を進めています。平成17年度は、山陽小野田市山陽町正寺～下関市松屋東町の改良を促進します。



代表整備箇所「国道376号 須々万バイパス」

須々万バイパスは、新市町村の中心部(旧徳山市)と旧市町村の中心部(旧熊毛町)を連絡する道路として、幅員狭小・線形不良の隘路区間の解消など、安全で安定した交通の確保を目的に整備を進めています。



出典:山口県の道路整備計画 (JOY ROAD PLAN)

市町村合併支援道路位置と圏域中心都市30分圏域の拡大